
Santiago do Cacém

について

サンティアゴ・ド・カセム

サンティアゴ・ド・カセム (Santiago do Cacém) はポルトガル南部ののどかな町で、その起源ははるか昔にさかのぼります。古代ローマ時代にはリスボンとアルガルヴェ (Algarve) とを結ぶ街道沿いにある重要な町で、それがこの町の発展に大きく寄与する要因となりました。

13世紀になると、1217年にアフォンソ2世 (D. Afonso II) 率いる軍勢によってキリスト教徒が最終的にこの町を征服しましたが、それより前の1157年にはテンプル騎士団によって征服されていました。もともとはムーア人によって建てられた城が建て替えられたのはほぼこの時期です。歴史的、建築的に興味深い建物としてはこの他にも、13世紀の教区教会 (Igreja Matriz) や17世紀のサン・ペドロ礼拝堂 (Capela de São Pedro) があります。

この地域の観光は、近郊のミロブリガ (Miróbriga) の遺跡、重要な農産物センター、古代ローマ時代の温泉を訪れなければ完全とは言えません。考古学的遺跡には、馬術演習場、数軒の家 (その一部には壁画があります)、明確に区画され、フォーラムや公共浴場が目目を引くアクロポリスなどを含む市の中心部などがあります。